

福祉教育教材「ともに生きる」

活用のための資料



目 次

福祉教育教材「ともに生きる」の活用にあたって	P 1
【第1章 支え合うってなんだろう？】単元の流れ	P 5
○わたしのつながりマップ	P 6
○支えられて生きている	P 7
○公民館のおじさんありがとう	P 8
【第2章 年をとるってどういうこと？】単元の流れ	P 9
○年をとるってどういうこと？	P 10
○ずっとずっと、わたしのおじいちゃん	P 11
○高齢者を支える地域の取り組み	P 14
○高齢者の持つ知恵や技能	P 16
○いつもの公園	P 18
【第3章 障害があるってどういうこと？】	
【第4章 みんなにとって優しいまちってどんなまち？】単元の流れ	P 19
○「障害」ってなんだろう？	P 21
○障害があるってどんなこと？「福岡県の状況」	P 22
○障害のある友だちの学校生活	P 23
○障害のある人の社会生活	P 24
○通勤中のできごと	P 25
【第4章 みんなにとって優しいまちってどんなまち？】	
○ユニバーサルデザインって知っていますか？	
○バリアフリーもユニバーサルデザインも	
○みんなの身近にある工夫	P 26
○みんなにとって優しいまちづくりの工夫をさがしてみよう！	P 27
○こんなマークを知っていますか？	P 28
【第5章 わたしにできることってなんだろう？】単元の流れ	P 29
○ボランティア活動ってなんだろう？	P 30
○わたしにもできるボランティア活動！	
○やってみよう！ボランティア活動！	P 31
○おばあちゃんの笑顔	
○ふだんのくらしのしあわせ	P 33
【福岡県内市区町村社会福祉協議会 一覧】	P 34

福祉教育教材「ともに生きる」の活用にあたって

1 教材作成のねらい

福祉教育は、住民参加の地域福祉の基盤づくりに欠くことができないものであり、特に学齢期における福祉の心づくりは、ともに支え合う心豊かな地域社会の実現に向けて大きな基礎となります。

現在、学校現場では、総合的な学習の時間や道徳、特別活動等で福祉やボランティアがより重視されるようになり、地域社会と繋がる機会が拡大されていますが、その一方でカリキュラムは各学校独自で編成されているため、福祉教育の推進を図るための教材が必要です。

福祉教育を形骸化させないためにも、現在の学校現場や子どもたちを取り巻く環境に合わせて、子どもたちと学校、地域の人材が一緒になって協同実践を行う中で、子どもたちの福祉的感性の涵養を図られることを願い、本教材を作成しました。

2 福祉教育とは

福祉教育というと、疑似体験や施設訪問、手話・点字といったプログラムが一般的ですが、体験だけに終わり十分なふりかえりを行わなければ、不便さや大変さだけを習得し貧困的な福祉観を再生産させてしまうという落とし穴があります。

福祉教育では、「いのちとくらしの主人公は私であること」「くらしとは他者との関わりで成り立つこと」「ともに生きる力を育むこと」を児童に伝え、ふりかえりを行うことで意識変革を促すことができます。福祉教育は特別なものではなく、子どもたちの心に働きかける息の長い活動です。

3 人権教育の感覚を育てる上での福祉教育

教育と社会福祉は、「人間の尊厳」、「相手の立場に立って考える心や、共に生きる力を育む」といった基本理念が共通しており、福祉教育と人権教育等は深い繋がりががあります。人権教育、平和教育、環境教育等入り口や素材は異なっても、ひろく「福祉」を学ぶことで、私たちは、「人を大切にする」、「命を大切にする」ことを学びます。このような学びは、いじめのないクラス運営、子どもたちが豊かに学ぶことのできる学校運営全体にも繋がりながら展開されていくものです。

4 対象学年

本教材は、小学校4・5年生を対象学年として作成していますが、3年生でも活用できるようにすべての漢字に振り仮名を記載しています。

また、内容が多岐にわたっているので、長期間活用できるように、裏表紙の名前の記入欄には、3年生から6年生の各学年での組を記入できるようにしています。

5 体裁等

本教材は、使いやすいようにA4サイズのワークブック形式とし、次のようなことを心掛けて作成しました。

- 全体としてイラストや写真を使用し、見やすくする。
- 読み物の文末に問いかけを入れる。
- 児童が考察できるような構成にする。
- ※ この1冊で学習の導入から終末までの一連を構成し得るもの。

6 作成にあたっての留意点

(1) 内容に係る視点

- ともに生きる力・支え合いの大切さを述べているもの。
 - ・ 一人では生きられないこと、生かされていることを実感する。
 - ・ 人と人の「つながり」のすばらしさを感じ取る。
- 人権感覚を身に付けられるもの。
 - ・ 命の尊さを学び理解する。
 - ・ 差別とは何かを意識して問う。
- 多様性を認め合えるもの。
 - ・ 個性を認め合う。
 - ・ 全ての人が同じ社会の一員であると認識する。
- 他人事ではなく、自分の問題として捉えられるもの。
 - ・ 共感する態度を養う。
- 地域の一員としての意識を育てるもの。
- ICF（国際生活機能分類）を意識したもの。
- ストレングスの視点（個性・良い点に焦点）など新しい福祉観を意識したもの。

(2) 活用促進のための視点

- 児童が身近に感じられ、親しみやすく、日常の行動に結び付けられるようなもの。
- 児童の好奇心が誘発され、興味がわき、疑問が生まれるもの。
- 児童が自分の学習を振り返られるもの。
- 体験的な学習を大切にしたもの。
- 道徳の時間や総合的な学習の時間で活用がしやすいもの。
 - ・ 学習への組み込みやすさに留意する。
 - ・ 子どもの調べ学習に活用できるよう工夫する。

7 各章のねらいや活用上の留意点

第1章 支え合うってなんだろう？

ねらい【人と人とがつながり支え合いながら生きていることを理解する】

- ・ 自分も地域の一員であるということを自覚する。
- ・ 自分を支えている周囲の人の存在に気付く。
- ・ 人に対する思いやりや人と人との関係を大切にすることを身に付ける。
- ・ 様々な人や施設・団体等がどのように関わり合いながら地域を支えているかを知る。

第2章 年をとるってどういうこと？

ねらい【老いについて理解し、高齢者に対する尊敬の念や思いやりの心を育む】

- ・ 高齢者の知恵や技能の素晴らしさを知る。
- ・ 高齢者に対する尊敬の念や思いやりの心を育てる。
- ・ 高齢者特有の心身の変化を伝え、理解を深める。
- ・ 高齢者の暮らしを支える地域の取り組みを知る。

第3章 障害があるってどういうこと？

ねらい【障害について理解し、多様性を認め合う】

- ・ 障害のある人の生活を知る。
- ・ 障害のある人も同じ社会の一員であることに気付く。
- ・ 様々な分野で活躍している障害のある人を知る。

第4章 みんなにとって優しいまちってどんなまち？

ねらい【誰もが暮らしやすいまちづくりについて考える】

- ・ 身のまわりにある誰もが安心して生活できるための設備や工夫に気付く。
- ・ 設備や工夫が何のために必要なのか知る。

第5章 わたしにできることってなんだろう？

ねらい【第1・2・3・4章を踏まえ、自分にできることを考え、行動する】

- ・ 社会の一員として自分にできることを考える。
- ・ ボランティア活動に興味・関心を持つ。
- ・ 寄付について理解する。

8 ことばの解説

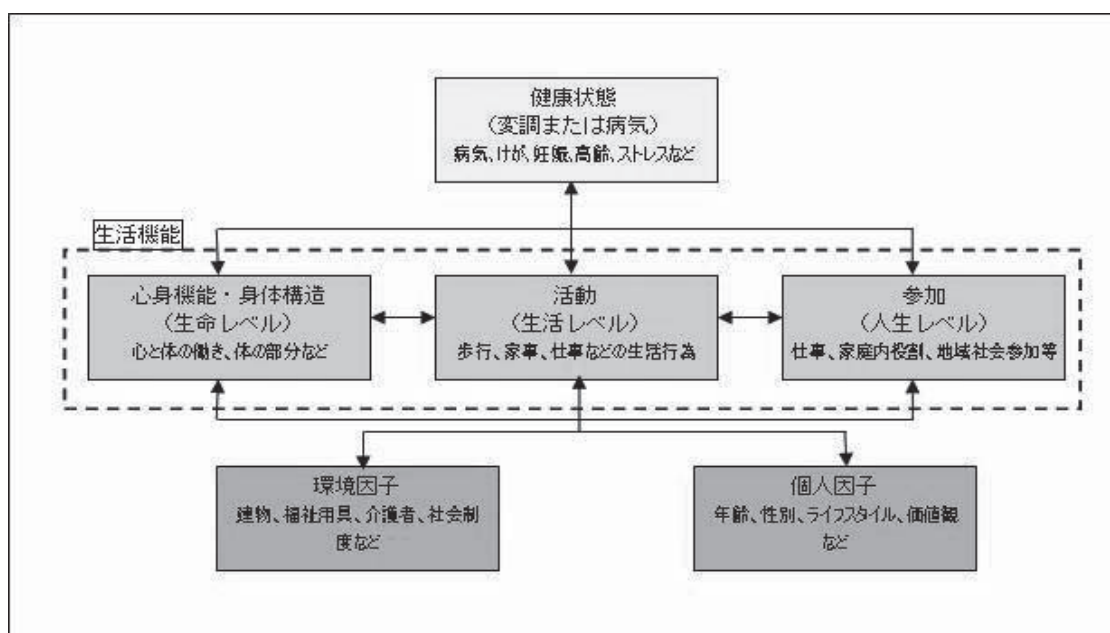
【教材全体に関するもの】

ICF（国際生活機能分類）の視点

(International Classification of Functioning, Disability and Health)

その人のもつ「強み」と「課題」に着目するとともに、様々な人の「ちがい」と「おなじ」に着目します。従来、障害とは本人の疾病によるものと捉えられてきましたが、今日ではそれだけでなく、むしろ生活のしづらさは「環境」の差によるものであるという考え方が強調されるようになってきました。環境因子という視点では、生活のしづらさは、本人の疾病や機能障害だけではなく、その人が生活している「環境」によって左右されます。障害とは、社会のバリア（障壁）によって作りだされる「障害を被る人たち」を意味し、障害とは当事者だけのことではなく、地域社会全体の問題として捉えます。

従って、ICFを用いた障害観では、その人の生活機能に着目し、生活上できることできないことを明確にし、一人ひとりの違いと同じを大切にし、医学モデルではなく、生活を基本とした社会モデルで捉えます。



ストレングスの視点

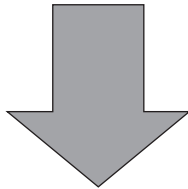
個人の持っている力に焦点を当て、それを引き出して、最大限に発揮できるように援助を行うことをいいます。これまでは、個人の弱さに対して、援助などが行われていましたが、ストレングスの視点によって、個人自らが問題解決の力を高めることにも繋がっていきます。

第1章「支え合うってなんだろう？」

単元の流れ

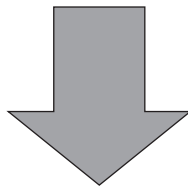
「わたしのつながりマップ」(P 1～P 2)

- 自分がたくさんの人たちとつながりながら生きていることに気付く。
 - ・ わたしを中心に周囲のどのような人々とつながっているかを想起し、「わたしのつながりマップ」に表す。
 - ・ できあがったマップを色分けする。



「支えられて生きている」(P 3～P 4)

- ① 様々な人や施設・団体等がどのように関わりあいながら地域を支えているかを知る。
- ② 自分も地域の一員であるということを自覚する。
 - ・ 支えてくれている施設や人の名前、どのように支えてくれていかを図に書き込む。
 - ・ 支えてもらって嬉しかったことを吹き出しに書く。



「公民館のおじさんありがとう」(P 5～P 8)

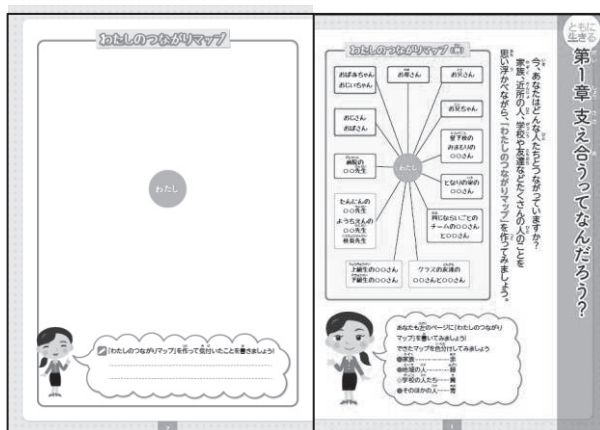
- ① 自分を支えている周囲の人の存在に気付く。
- ② 人に対する思いやりや、人と人との関係を大切にすることを身に付ける。
 - ・ 「公民館のおじさんありがとう」を読んで感想を出し合う。
 - ・ 自分の周りの支えてくれている人にどのように感謝の気持ちを伝えたいか考え出し合う。

第1章 支え合うってなんだろう？

○「わたしのつながりマップ」 (P1~P2)

【ねらい】

- 自分がたくさんの人たちとつながりながら生きていることに気付く。



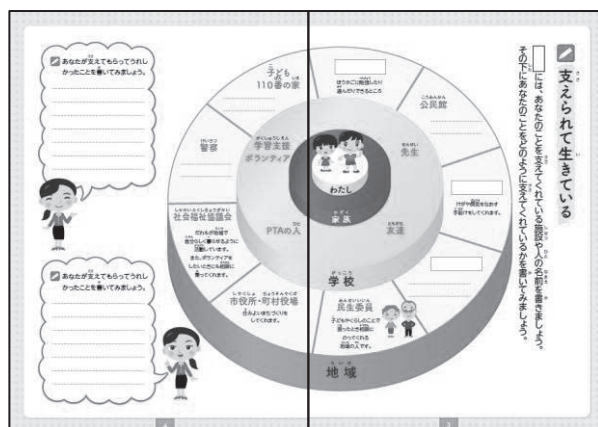
学習活動例	指導上の留意点
<p>1 「わたしのつながりマップ」の例を見て、自分が今どのような人たちと繋がっているか想像する。</p>	<p>○ 家族や友達だけでなく、地域の人やその他の人とも繋がっていることに気付かせる。</p>
<p>2 例を参考に、「わたしのつながりマップ」を作成する。</p>	<p>○ 思い浮かべた人たちを基に「つながりマップ」を作成することで、自分がどのような人たちと繋がっているか整理させる。</p>
<p>3 作成した「つながりマップ」を家族、学校など、分類ごとに色分けし、気付いたことを話し合う。</p>	<p>○ 家族だけでなく、地域や学校などたくさんの人たちとも繋がりながら生活していることに気付かせる。</p>

第1章 支え合うってなんだろう？

○「支えられて生きている」 (P3~P4)

【ねらい】

- ① 様々な人や施設・団体等がどのように関わり合いながら地域を支えているかを知る。
- ② 自分も地域の一員であることを自覚する。



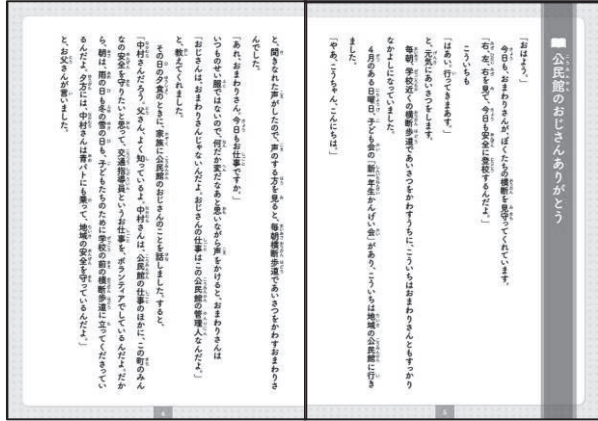
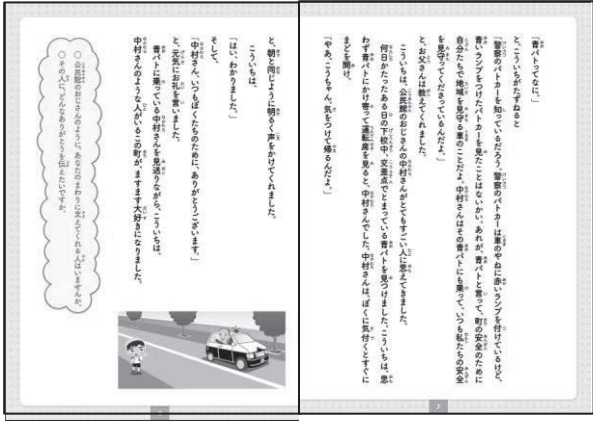
学習活動例	指導上の留意点
<p>1 支えてくれている施設や人の名前と、どのように支えてくれているかを空欄に記入する。</p> <p>2 4ページに、自分が支えてもらってうれしかったことを記入する。</p>	<p>○ いままで気付かなかった、様々な形で支えてくれている施設や人に気付かせる。</p> <p>○ 地域の施設がそれぞれどのように自分を支えてくれているかを考えさせる。</p> <p>○ 人と人は互いに支え合って生活しており、自分もその地域の一員であることに気付かせる。</p>

【解説】

- 放課後に勉強したり遊んだりするところ
学童保育、放課後児童クラブ、児童館、チャイルドケアセンターなど、地域の実態に応じて名称が異なります。
- 学習支援ボランティア
ゲストティーチャー、授業協力者、地域・保護者等による学習支援などがあります。

第1章 支え合うってなんだろう？

○「公民館のおじさんありがとう」(P5~P8)



【ねらい】

- ① 自分を支えている周囲の人の存在に気付く。
- ② 人に対する思いやりや、人と人との関係を大切にすることを身に付ける。

学習活動例	指導上の留意点
<p>1 「公民館のおじさんありがとう」(P5~P8)を読んで、感想を発表する。</p> <p>2 自分の周りの支えてくれている人を考え、また、その人にどのように感謝を伝えたいか発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域で安心して暮らし続けるために、様々な人たちが様々な活動をしていることに気付かせる。 ○ いつもは気付かないが、周りにいる自分を支えてくれているたくさんの人たちの存在を気付かせる。 ○ いつも支えてくれている人に感謝の気持ちを伝えることの大切さを理解させる。

第2章「年をとるってどういうこと？」

単元の流れ

「年をとるってどういうこと？」（P 9～P 10）

- ① 自分のもつ高齢者に対するイメージに気付く。
- ② 年をとることで起こる心身の変化を知るとともに、年をとっても生き甲斐をもって元気に活動する高齢者がいることに気付く。

「ずっとずっと、わたしのおじいちゃん」（P 11～P 16）

- ① 認知症の方の気持ち（苦しみや葛藤）に気付く。
- ② 心身の変化があっても、大切な家族であることに変わりはないことを見つめ直し、家族を支えていこうとする心情を高める。
- ③ 「認知症の方を地域で支えていこうとする」にまで広げる。 【振り返り（P 9）】

「高齢者を支える地域の取り組み」① （P 17～P 18）

- ① 地域には様々な高齢者を支える仕組みがあることに気付く。
- ② 自分も高齢者の暮らしを支える取り組みに参加したいとの思いを持つ。

「高齢者の持つ知恵や技能」① （P 21）

- ① 年をとっても自らの技能を活かして活躍している人がいることを知る。
- ② 高齢者の深い知識・技能に尊敬の念を抱く

「高齢者を支える地域の取り組み」② （P 19～P 20）

- ① 自分たちの地域で行われている取り組みについて知る。
- ② 高齢者とふれあうことで、積極的に高齢者とふれあっていきたいとの思いを持つ。
※地域の方と繰り返し関わることで関係を深める。
【振り返り（P 10）】

「高齢者の持つ知恵や技能」② （P 22～P 24）

- ① インタビューや体験等、実際に地域に出て学習することで、高齢者の知恵や技能についての知識を深め、尊敬の念を抱く。
- ② 元気に活躍している高齢者とふれあうことで、もっと高齢者とふれあいたいとの気持ちを持つ。
※繰り返し関わることで関係を深める。
【振り返り（P 10）】

「いつもの公園」（P 25～P 28）

- ① 高齢者の深い知識に触れることで、発見・気づきから尊敬の念を抱く。
- ② 日常生活の中に高齢者との接点があることに気付く。 【振り返り（P 10）】

- 学習後の高齢者に対する児童自身の考え方の変化を書くことで、自分の変容を知る。 【振り返り（P 10）】

第2章 年をとるってどういうこと？

○「年をとるってどういうこと？」 (P9~P10)

【ねらい】

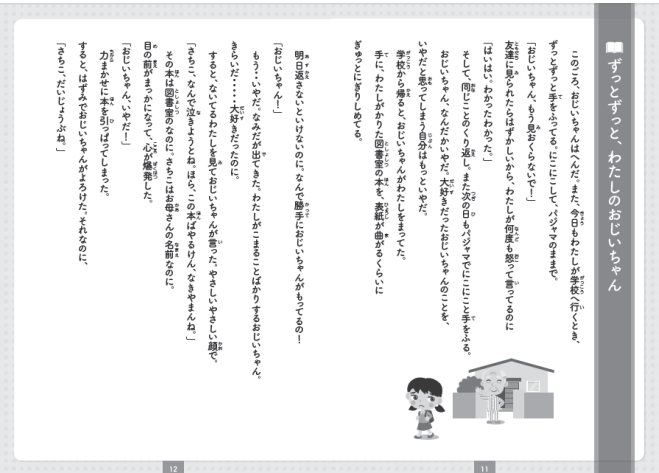
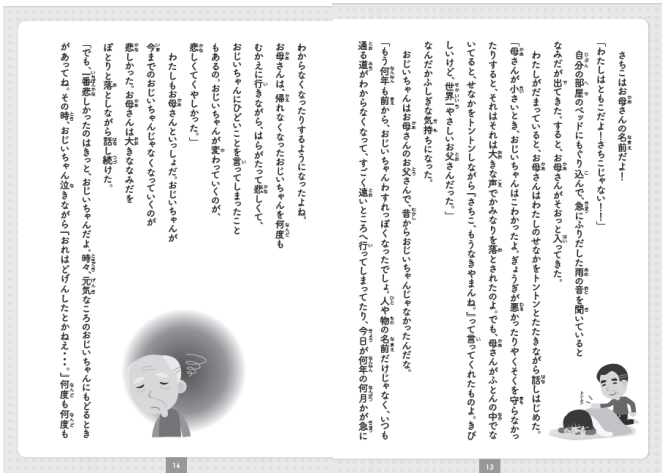
- ① 自分のもつ高齢者に対するイメージに気付く。
- ② 年をとることで起こる心身の変化を知るとともに、年をとっても生きがいをもって元気に活動する高齢者がいることに気付く。



学習活動例	指導上の留意点
<p>1 現在持っている高齢者に対するイメージを書く。</p> <p>2 吹き出しや写真を通して、年をとることで起こる心身の変化を知る。</p> <p>3 吹き出しや写真を通して、年をとっても元気に様々な活動を行っている人がいることに気付く。</p> <p>※ 振り返りのページとして活用する。</p>	<p>○ 身近な高齢者に対して、今、持っているイメージを書くことで、高齢者について考えさせる。</p> <p>○ 年をとることで起きる様々な心身の変化に気付かせる。</p> <p>○ 知恵や技能を活かして様々な活動をしている人や生きがいを見つけて、はつらつと活躍している高齢者がいることに気付かせる。</p> <p>○ 心身の変化や活躍を対比することで、年をとることの多面性に気付く。</p> <p>○ 各学習の後の高齢者に対する自分の見方や考え方を記入し、高齢者に対するイメージや自分の気持ちの変化（学習の積み重ね）を一目で見て感じさせる。</p>

第2章 年をとるってどういうこと？

○ 「ずっとずっと、わたしのおじいちゃん」 (P11～P16)

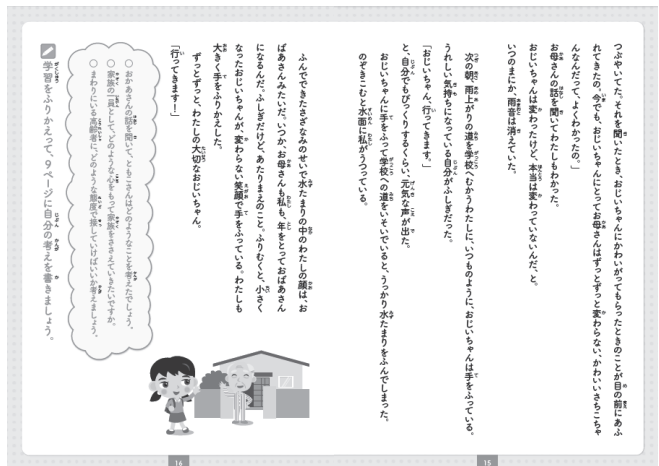


【道徳の時間での活用例】

主題名「家族を支える心」

【ねらい】

- ① 認知症の方の気持ち（苦しみや葛藤）に気付く。
- ② 心身の変化があっても、大切な家族であることに変わりはないことを見つめ直し、家族を支えていこうとする心情を高める。
- ③ 「認知症の方を地域で支えていこうとする」にまで広げる。



学習活動例	指導上の留意点
<p>【事前】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 認知症についての学習を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1 おじいちゃんに強い言葉をぶつけてしまった、ともこさんの気持ちを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 認知症という病気について理解することで、認知症の方、支える家族の気持ちを考えていこうとする目的意識を持たせる。 ○ ともこさんの気持ちを考えることで、誰でも年をとること、大切な人が変わっていくことへの家族としてのつらさを共感させる。

学習活動例	指導上の留意点
<p>2 お母さんの話を聞いた、ともこさんの気持ちを考える。</p> <p>〈発展〉</p> <p>○ まわりにいる高齢者に、どのような態度で接していくことができるか考える。</p> <p>○ 当事者又は家族の話を聞く。</p>	<p>○ ともこさんの気持ちを考えさせることを通して、お母さんの悲しみや、おじいちゃんの苦しみに気付かせる。</p> <p>○ 思いやりの心をもって接することを家族以外（まわり）の高齢者に向けても持てるように思いやりの心を広げる。家族だけで解決するのは難しくまわりの人たちの理解・協力が欠かせないことについて、細かく指導する。</p> <p>○ 当事者や家族と触れ合うことで、認知症問題をより身近なものにとらえることができるようにする。</p>
<p>【解説】</p> <p>○ 認知症 物事を覚えたり、理解したり、判断したりする力の低下によって、普通の生活を送ることが難しくなってしまう脳の病気のこと。</p> <p>○ 認知症の種類 ア アルツハイマー型認知症・・・約60～70%を占める イ レビー小体型認知症・・・・約10～15% ウ 血管性認知症・・・・約10～15% エ 前頭側頭型認知症・・・・約10～15% これら4つを四大認知症と呼ぶ。</p> <p>○ 認知症患者の心理 ※「図説 認知症高齢者の心がわかる本」（講談社）から引用 <u>心のステージ1・・・・とまどい・不安の時期</u> なにかおかしい、自分が自分でなくなっていくという不安、おびえ、とまどい <u>心のステージ2・・・・否認・怒りの時期</u> 「こんなはずじゃない！」という否認とないがしろにされているという思いこみで、周囲に怒りをぶつけがちになる。</p>	

心のステージ3・・・焦り・抑うつの時期

自身の状態を半分認め、そこから抜け出せないことに焦り、ふさぎこみ、妄想を抱くことで自分と折り合いをつけようとする。

心のステージ4・・・無欲・安穩の時期

感情は落ち着いておだやかになり、うれしいこと、楽しいことを感じとって体調も良くなる。

- 認知症高齢者との接し方
 - ア 不安感を取り除く関わりをする。
 - イ 明るく、楽しい気分で関わる。
 - ウ 相手のペースにあわせてゆっくり話をする。
 - エ 目をみて話しかける。
 - オ 穏やかに、はっきりと言葉を出す。
 - カ 指示はなるべく短めにする。
 - キ 話しをするときは近くに寄る。
 - ク 理屈で議論は避ける。
 - ケ 間違っただ言動を受け入れてみる。
→ 嘘でも妄想でも、一度受容してみる。
 - コ 家族は一人で抱え込まないようにする。
 - サ 高齢者の今を大切にする。

【関係団体や当事者等団体の紹介】

- **各市区町村社会福祉協議会**
P 3 4～P 3 5 参照
- **公益社団法人 認知症の人と家族の会 福岡県支部**
住 所 福岡市中央区荒戸3-3-39 福岡市市民福祉プラザ団体連絡室
電 話 092-771-8595
F A X 092-771-8595

第2章 年をとるってどういうこと？

○「高齢者を支える地域の取り組み」(P17~P20)



【ねらい】

- ① 地域には、さまざまな高齢者を支える仕組みがあることに気付く。
- ② 自分も高齢者の暮らしを支える取り組みに参加したいとの思いを持つ。
- ③ 自分たちの地域で行われている取り組みについて知る。
- ④ 高齢者と触れ合うことで、積極的に高齢者と触れ合っていきたいとの思いを持つ。

学習活動例	指導上の留意点
<ol style="list-style-type: none"> 1 自分の地域で行われている地域の高齢者を支えている取り組みについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の社会福祉協議会や民生委員・児童委員を呼んで話を聞く。 ・ 広報誌等や社協、行政のホームページ等を活用し調べる。 2 自分たちにできることを話し合う。 3 実際に活動に参加する計画を立て実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の地域で行われている取り組みを知ることで、自分も地域の一員であることを実感し、高齢者を支えたいとの気持ちを持たせる。 ○ P20を参考に地域の人たちと実際に触れ合う取り組みを考えさせる。 ○ 実際に活動に参加することで、自分も地域の一員であることに気づくとともに、高齢者と触れ合うことの楽しさに気付き、今後も地域の高齢者との関わりを持ちたいとの思いを持たせる。

【見守り訪問活動】

(なぜ見守り訪問活動が必要なのか?)

地域には、高齢者や障害者、子育て中の方など様々な方が暮らしています。

かつては、「向こう三軒両隣り」といった濃密な近隣関係の中で、気遣い合いや気付き合いが行われてきました。しかし急速な高齢化の中、人間関係の希薄化により、地域の支え合い機能が低下し孤独死や虐待等の社会的孤立の問題が発生しています。

また、少子高齢化に伴い、単身高齢者や高齢夫婦世帯の増加など、支援を必要とする方が増えています。身近な地域の中で、お互いのさりげない気遣いやちょっとした目配りにより、地域の中で発生する様々な問題を早期に発見することができ、問題が深刻になるのを防ぐことに繋がります。

(事業者を含めた地域の見守りの仕組み)

「見守りネットふくおか」



福岡県が行っている事業で、各家庭に訪問する機会の多い事業者がひとり暮らし高齢者等の異変を察知した時に市町村へ通報する活動を行っている。(日本郵便(株)九州支社、九州電力(株)、西部ガス(株)、エフコープ生活協同組合、グリーンコープ生活協同組合ふくおか、新聞販売店連合組織等)

【高齢者サロン】

(なぜ高齢者サロンが必要なのか?)

高齢社会を迎え、また、ライフスタイルの変化などにより、ひとり暮らし高齢者が増えています。外出もせず、誰とも話さずに過ごす一人暮らし高齢者もいます。高齢になるにつれ社会的な活動が少なくなり、人間関係はだんだん薄くなっていきます。そうすると、家に閉じこもりがちになり、さらに行動が不活発になることもよく見られます。そのような高齢者に地域とのつながりを作ることを目的に行われるのが高齢者サロンです。

サロンは、参加する一人ひとりがともに楽しい時間を過ごしながら「地域の一員」としての気持ちを高め、地域社会におけるつながりの再構築、ひいては地域の助け合いが広がっていくことのきっかけの場となります。

【徘徊ネットワーク】

(なぜ徘徊ネットワークが必要なのか?)

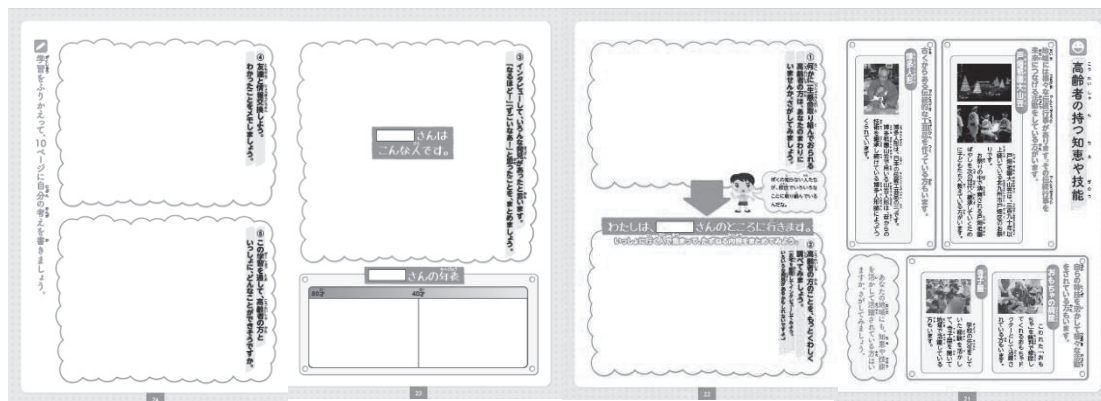
認知症になると、家の中や外を歩き回るといった行動が見られます。これを徘徊といい家の中だけだと家族で対応することができますが、家の外に出てしまい、行方不明となってしまうことがあります。こういう場合に早期発見・保護を行う仕組みが徘徊ネットワークです。

徘徊ネットワークには様々な機関が参加しており、地域全体で見守る仕組みが作られています。

また、徘徊ネットワークは認知症患者だけでなく、障害者等の行方不明の場合にも活用され、県内の様々な市町村においてネットワークが作られています。

第2章 年をとるってどういうこと？

○「高齢者の持つ知恵や技能」(P21~P24)



【ねらい】

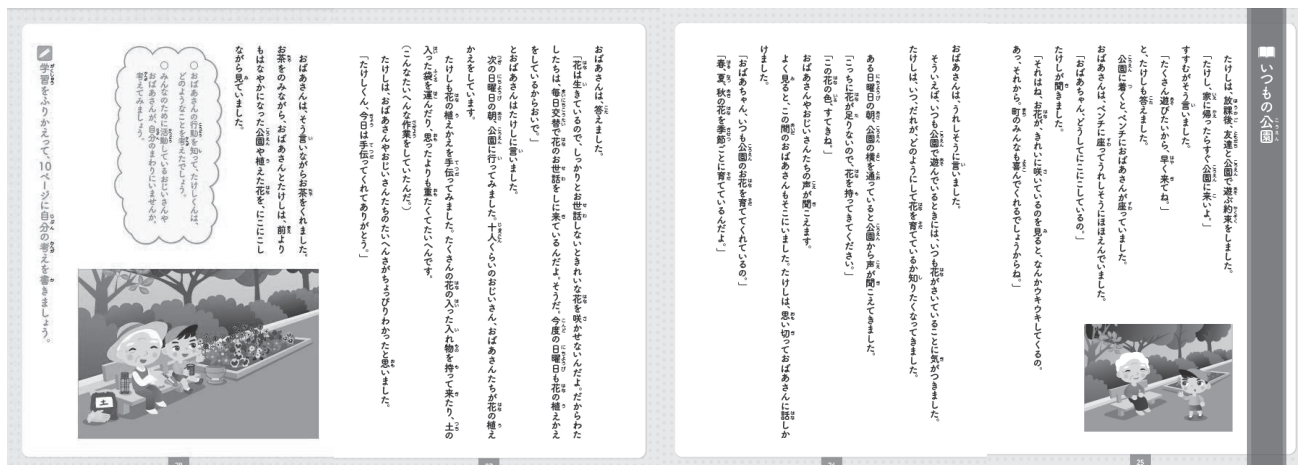
- ① 年をとっても自らの技能を活かして活躍している人がいることを知る。
- ② 高齢者の深い知識・技能に尊敬の念を抱く。
- ③ インタビューや体験等、実際に地域に出て学習することで、高齢者の知恵や技能についての知識を深め、尊敬の念を抱く。
- ④ 元気に活躍している高齢者と触れ合うことで、もっと高齢者と触れ合いたいとの気持ちを持つ。

学習活動例	指導上の留意点
<p>1 伝統行事が続いている背景に高齢者の活躍があることを知る。</p> <p>2 古くからある伝統工芸等の技術を長い時間をかけ磨き、次世代に継承している人がいることを知る。</p> <p>3 自らの特技を活かして様々な活動をしている人がいることを知る。</p>	<p>○ 地域のお祭りに参加したことがある児童には、参加した時の思い出を想起させ、日常での高齢者の活躍を気付かせる。</p> <p>○ 一つの技術を長い間培ってきた職人さんの技術の高さを通して、高齢者の知恵や技能のすばらしさに気付かせる。</p> <p>○ 職人さんなど特別な人だけでなく、知恵や技能を活かして輝いておられる高齢者の方が近くにもいることを気付かせ、ワークへの繋ぎとする。</p>

学習活動例	指導上の留意点
<p>4 自分のまわりで何かに一生涯懸命取り組んでいる高齢者を出し合う。 グループで複数回答を出し、担当を決める。</p> <p>5 尋ねる人について詳しく調べ、インタビューする内容を決める。</p> <p>→ 4及び5については、地元の社会福祉協議会や公民館等に情報提供を求める。</p> <p>6 実際にインタビューや体験を行う。</p> <p>7 インタビューした高齢者の年表を作る。</p> <p>8 友達と情報交換を行い、他のグループがインタビューを行った高齢者についての情報を知る。</p> <p>9 高齢者との触れ合いから感じたこと、自分たちにできることを話し合う。</p>	<p>○ 地域の高齢者について考えることで、さまざまな活動をしている高齢者が自分のまわりにもいることを気付かせる。</p> <p>○ 事前にインタビューの内容をインタビュー対象者に知らせ、打ち合わせを行っておく。</p> <p>○ インタビューを通して、高齢者と触れ合うことの楽しさを気付かせる。</p> <p>○ 誰でも年をとることを気付かせ、様々な経験をしてきていることに気付かせる。</p> <p>○ 自分が調べてきた高齢者についての共通点を見つけさせる。</p> <p>○ 高齢者からもっと学びたい、もっと触れ合いたいとの思いを持たせ、日常的な高齢者との触れ合いに繋げる。</p>

第2章 年をとるってどういうこと？

○「いつもの公園」(P25~P28)



【道徳の時間での活用例】 主題名「高齢者への感謝の心」

【ねらい】

- ① 高齢者の深い知識に触れることで、発見・気づきから尊敬の念を抱く。
- ② 日常生活の中に高齢者との接点があることに気付く。

学習活動例	指導上の留意点
<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者について思うことを考える。 2 おばあちゃんの行動を知って、たけしは、どのようなことを思ったか考える。 3 おばあちゃんと一緒に活動を行った時にたけしはどのように思ったかを考える。 4 自分の身の回りにもみんなのために活躍している高齢者について考える。 5 教師の説話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日頃思っている高齢者の様々なイメージを出すようにする。 ○ たけしになりきって、気持ちを考えさせ、高齢者について考えるきっかけとする。 ○ 日頃の生活の中で地域の方が様々な手助けをしてくれていることに気づき、自分も誰かのために活動したいとの思いに繋げる。 ○ 身の回りでみんなのために活躍している高齢者の写真などを提示し、イメージしやすいようにする。

第3章「障害があるってどういうこと？」
第4章「みんなにとって優しいまちってどんなまち？」

単元の流れ

「障害ってなんだろう？」（P29～P30）

- ① 障害があるということは、特別なことではなく自分にも関係があるということに気付く。
- ② 障害児・者の福祉について学ぶ意欲を高める。



「障害があるってどんなこと？」「福岡県の状況」（P31～P32）

- ① 「障害がある」ということに対する自分が持っているイメージを整理し、共有する。
- ② 障害があっても、自分と同じように学習する場があることを知る。



「障害のある友達の学校生活」
（P33～P36）

- ① 障害のある友だちも、自分と同じように学校に通い、学習していることを知る。

「障害のある人の社会生活」
（P37～P40）

- ① 障害のある人の社会生活を知るとともに、同じ社会の一員であることに気付く。
- ② 障害のある人が子育てをしたり、働いたり、生きがいを持って暮らしていることを知る。

「通勤中のできごと」（P41～P44）

- ① 同じ障害のある人でも、見え方や感じ方、得意なこと、不得意なことなど、一人ひとり違いがあることを知り、ともに生きる自分がどのように関わりたいか考える。
 - ・ 障害のある人の社会生活を知り、支援や方法についての手助けの視点を考える。



（参考資料）「障害の特性」（P45～P48）
・ 障害児・者など福祉の学習を通して学んだことをまとめるとともに、様々な障害や特性があることを知り、理解を深める。

「みんなにとって優しいまちづくりの工夫を探してみよう」(P51~P52)

- ① 自分の住んでいる地域にも、様々な「みんなにとって優しいまちづくりの工夫」があることに気付く。
- ② 次回以降に実地(校区)調査に行く意欲を持つ。

・みんなにとって優しいまちづくりの課題設定をする。



「ユニバーサルデザインって知っていますか？」(P49)

「バリアフリーもユニバーサルデザインも」(P49)

「みんなの身近にある工夫」(P50)

- ① バリアフリー及びユニバーサルデザインの考え方を知る。
- ② 身近なところにも、誰もが暮らしやすいための工夫があることに気付く。

- ・ バリアフリー、ユニバーサルデザインを知り、身近な生活の中にあるバリアフリーやユニバーサルデザインを調べる。
- ・ だれもが使いやすい工夫や、障害に対応する工夫について、知っていること、新しく知ったことなどを話し合い、暮らしやすい工夫について興味関心を持つ。



「こんなマークを知っていますか」(P53~P54)

- ① 第3、4章の学習を振り返り、福祉の考えを確かめる。
- ② 「みんなにとって優しいまち」にするためには、建物や設備などを整備することも必要であるが、それ以上に一人ひとりが「思いやりのこころ」を持つことが大切であることに気付く。

・ 学習全体の振り返りと今後の生活への活かし方を話し合う。

(参考資料)「障害の特性」(P45~P48)

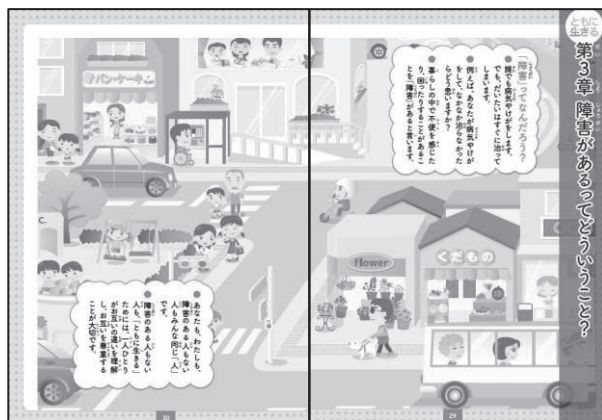
・ 障害児・者など福祉の学習を通して学んだことをまとめるとともに、様々な障害や特性があることを知り、理解を深める。

第3章 障害があるってどういうこと？

○「障害ってなんだろう？」(P29~P30)

【ねらい】

- ① 障害があるということは、特別なことではなく、自分にも関係があるということに気付く。
- ② 障害児・者の福祉について学ぶ意欲を高める。



学習活動例	指導上の留意点
<p>1 イラストにどんな人たちがいるか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 車いすで公衆電話を利用する男性。 ・ 盲導犬を連れている男性。 ・ 補聴器をつけ手話で会話する学生。 <p>(2章との関連：高齢者の手を引く子ども)</p> <p>2 自分や身近な人が病気やけがをした時の経験を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 足を骨折して松葉杖や車いすを利用した。 ・ 「ものもらい」などで眼帯を使用した。 <p>3 これから「ともに生きる」ことを学ぶ意欲を高める。</p>	<p>○ 地域にはいろいろな人が暮らしていることに気付くように促す。</p> <p>○ 自分や身近な人が病気やけがをした時の気持ちや、自由に動けない不便さ、眼帯等をした時の見え方などについて、考えさせ、次の学習 (P 31 ~ P 32) への導入のきっかけとする。</p> <p>○ 障害は、それぞれ違いがあることを気付かせるとともに、これからの学習の意欲づけを図る。</p>

【解説】

- 「障害」の表記について
「障害」の表記は、自治体によって「障害」・「障がい」・「障碍」など、様々な表記が使用されていますが、本教材では、国が現在 (平成27年3月末) 使用している「障害」の表記で統一しています。
- 「障害」には、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、知的障害、発達障害など多様な障害があります。(本教材 P 45 ~ 48 に記載)

第3章 障害があるってどういうこと？

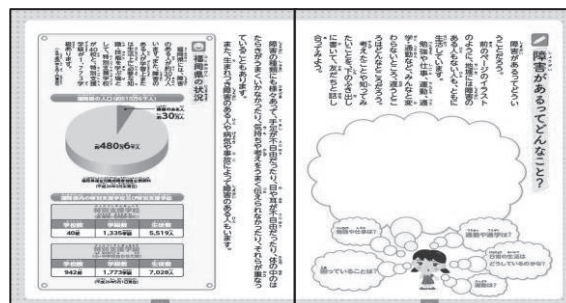
○ 「障害があるってどんなこと？」

○ 「福岡県の状況」

(P31～P32)

【ねらい】

- ① 「障害がある」ということに対する自分が持っているイメージを整理し、共有する。(P31)
- ② 障害があっても、自分と同じように学習する場があることを知る。(P32)



学習活動例	指導上の留意点
<p>1 吹き出しに「障害」について知っていることや知りたいこと、疑問に思うことを書いて話し合う。</p> <p>2 県内の障害者数や特別支援学校・特別支援学級の数を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の知りたい意欲・調べたい意欲を高める。 ○ 「障害のある友達の学校生活」(P33～P36)、「障害のある人の社会生活」(P37～P40)の学習へ繋げる。 ○ ここで書いた内容を、第3、4章の学習終了後に振り返り、自分の考えの変化に気付くことができるようにする。 ○ 福岡県内に、多くの障害のある人が暮らしていることを知らせる。 ○ 障害があっても、健常者と同様に学習する場があることを知らせ、次の学習(P33～P36)に繋げる。 ○ 自分たちの身近にある特別支援学校や特別支援学級について話題にする。

【解説】

- 特別支援学校
特別支援学校では、幼稚園、小学校、中学校、高等学校に準ずる教育を行うとともに、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために、「自立活動」という特別の指導領域が設けられています。
 - 特別支援学級
特別支援学級は、特別支援学校に比べ障害の程度が軽いものの通常の学級における指導では十分に成果を上げることが困難な児童生徒を対象として、必要に応じて小・中学校に設けられている学級です。
- ※ 「障害のある子どもの教育支援と就学事務の手引き」(福岡県教育委員会)から引用

第3章 障害があるってどういうこと？

○「障害のある友だちの学校生活」 (P33~P36)



【ねらい】

- 障害のある友だちも、自分と同じように学校に通い、学習していることを知る。

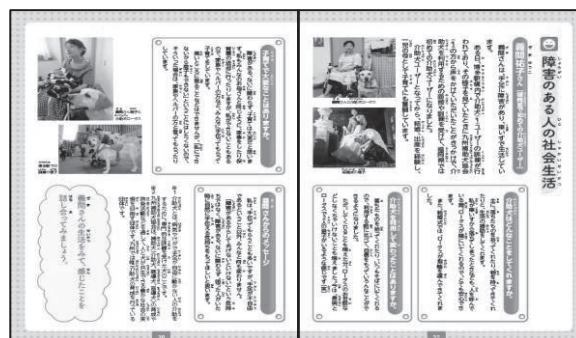
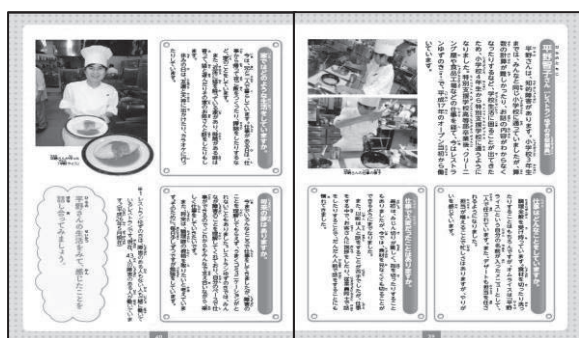
学習活動例	指導上の留意点
<p>1 P31を想起して、障害のある友だちがどのような勉強をしているのか、考えを出し合う。</p> <p>2 「障害のある友だちの学校生活」(P33~P36)を読み、特別支援学校や特別支援学級の学習内容等を知り、感想を話し合う。</p> <p>※ 各学校の実態に応じて、見学や訪問等の計画を立てる。見学や訪問後に手紙やプレゼント交換などをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 障害のある友だちの学校生活について、知りたい意欲を高める。 ○ P33~P36の資料から障害のある友だちも、それぞれの障害の特性に合った学校に通い、小・中学校と同じ教科や教科書、時間割などがあることに気付かせる。 ○ 自分たちに身近な特別支援学校や特別支援学級の友だちに意識を向け、見学や訪問について交流及び共同学習の意欲を高めてから、計画を立てるようにする。 ※ 交流及び共同学習のきっかけとして繋げていく。

【解説】

- 自立活動
特別支援学校、特別支援学級及び通級による指導において行われる指導であり、自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、心身の調和的発達の基盤を培うことを目標としています。
 - 生活単元学習
生活上の目標の達成及び課題の解決のために、運動会等の学校行事を中心とした行事単元、畑作り等の季節の生活を中心とした季節単元等を設定し、自律的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習するものです。
 - 日常生活の指導
児童生徒の日常生活が充実し、高まるように、衣服の着脱等の基本的な生活習慣の内容及び挨拶等の日常生活や社会生活において必要で基本的な内容を指導するものです。
- ※ 「平成26年度 福岡県の特別支援教育」(福岡県教育委員会)から引用

第3章 障害があるってどういうこと？

○「障害のある人の社会生活」 (P37~P40)



【ねらい】

- ① 障害のある人の社会生活を知るとともに、同じ社会の一員であることに気付く。
- ② 障害のある人が子育てをしたり、働いたり、生きがいを持って暮らしていることを知る。

学習活動例	指導上の留意点
<p>1 P31を想起して、「障害」や「障害のある人」についてイメージを共有する。</p> <p>2 義間さんの生活 (P37~P38) を見て、感じたことを話し合う。</p> <p>3 平野さんの生活 (P39~P40) を見て、感じたことを話し合う。</p>	<p>○ 障害のある人の社会生活について、疑問に思ったことや知りたいことについてまとめ、学習に対しての意欲を高める。</p> <p>○ 介助犬や盲導犬などの補助犬を介して、安心して社会生活ができることを知らせる。</p> <p>○ 「義間さんからのメッセージ」をとりあげ、その願いや思いを共感できるようにする。</p> <p>○ 障害があっても、社会や地域の中で活躍している人があることを知らせる。</p> <p>○ 障害のある人もない人も一緒に働く職場があることに触れる。</p> <p>○ 障害のある人は特別な存在ではない、自分たちと同じように地域で生活し、社会の中で仕事をしていることに気付かせる。 (「通勤中のできごと」(P41~P44)と関連)</p> <p>※ 各学校の実態に応じて、地域に住む障害のある人をゲストティーチャーとして招くことも検討する。</p>

第3章 障害があるってどういうこと？

○「通勤中のできごと」 (P41～P44)



【ねらい】

- 同じ障害のある人でも、見え方や感じ方、得意なこと、不得意なことなど、一人ひとり違いがあることを知り、ともに生きる自分がどのように関わりたいか考える。

学習活動例	指導上の留意点
<p>1 「通勤中のできごと」(P41～P44)を読んで、感想を発表する。</p> <p>2 視覚障害のある人に出会ったら、どのように接したらいいか考え、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 視覚障害のある人でも、見え方の違い、得意なこと、不得意なことなど、一人ひとり違うことに注目させる。 ○ 点字ブロックの上に自転車など物を置いたらどうなるかを考え、点字ブロックの役割に気付くようにする。 ○ 「困ったことはありませんか?」「一緒にいきませんか」などといった声かけが大切であるということを伝える。

【解説】

○ 点字ブロック

点字ブロックは、正式名称を「視覚障害者誘導用ブロック」といいます。視覚障害者が足裏の触覚で認識できるよう、突起を表面につけたもので、視覚障害者を安全に誘導するために地面や床面に敷設されているブロック(プレート)のことで、「誘導ブロック」と「警告ブロック」の2種類あります

- ・ 「誘導ブロック」は、進行方向を示すブロックです。線が並んだ形状をしているため「線状ブロック」とも呼ばれています。
- ・ 「警告ブロック」は、危険個所や誘導対象施設等の位置を示すブロックです。点が並んでいる形状をしているため、「点状ブロック」とも呼ばれています。

※ 「社会福祉法人 日本盲人会連合」HPから引用

第4章 みんなにとって優しいまちってどんなまち？

- 「ユニバーサルデザインって知っていますか？」(P49)
- 「バリアフリーもユニバーサルデザインも」(P49)
- 「みんなの身近にある工夫」(P50)

【ねらい】

- ① バリアフリー及びユニバーサルデザインの考え方を知る。
- ② 身近なところにも、誰もが暮らしやすいための様々な工夫があることに気づく。



学習活動例	指導上の留意点
<ol style="list-style-type: none"> 1 バリアフリー及びユニバーサルデザインの考え方を知る。 2 P50のイラストを見て、実際にお金やリモコンを確認してみる。 3 学校や家庭、地域の中にあるバリアフリーやユニバーサルデザインで見たことのあるものを発表し合い、次回以降の学習への意欲をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ バリアフリーとユニバーサルデザインは、どちらが上位ということではなく、どちらも大切であるということを伝える。 ○ 自分たちが使っているものが、誰もが使いやすいように工夫されていることに気付かせる。 ○ 「みんなにとって優しいまちづくりの工夫を探してみよう！」「こんなマークを知っていますか」(P51～53)に繋げる。 ○ 身近にたくさんの工夫があることに気付かせる。 (例)・ 小さな力でも綴じることができるホッチキス。 ・ シャンプーとリンスを区別ができるように、シャンプーの容器にギザギザがついているなど。 ○ バリアフリーやユニバーサルデザインでなく、身近で困っているところについて取り上げるのも良い。
<h3>【解説】</h3> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「バリアフリー」と「ユニバーサルデザイン」の考え方 バリアフリーは、障害のある人の生活に及ぼす障壁を取り除くことを目指していたのに対し、ユニバーサルデザインは、障害のある人を特別に対象とするのではなく、すべての人に使いやすい製品、環境、情報のデザインを目指しています。 ※ 「社会福祉用語辞典 第9版」(ミネルヴァ書房)から引用 	

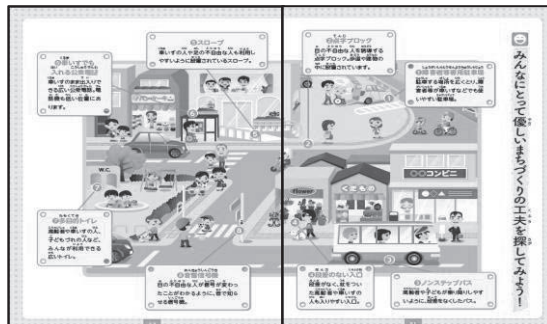
第4章 みんなにとって優しいまちってどんなまち？

○「みんなにとって優しいまちづくりの工夫を探してみよう！」

(P51～P52)

【ねらい】

- ① 自分の住んでいる地域にも、様々な「みんなにとって優しいまちづくりの工夫」があることに気付く。
- ② 次回以降に実地（校区）調査に行く意欲を持つ。



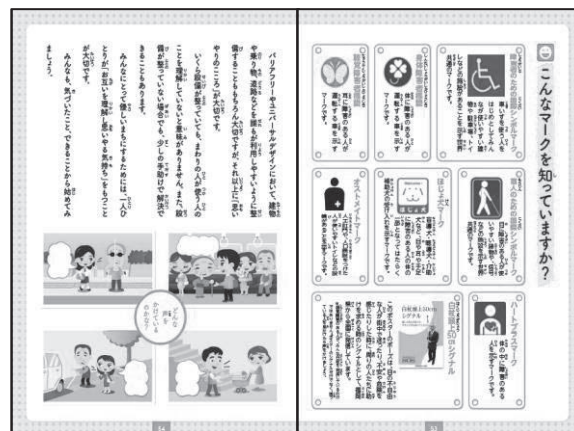
学習活動例	指導上の留意点
<p>1 P51～P52のイラストを参考に、バリアフリーやユニバーサルデザインについて話し合う。</p> <p>2 みんなにとって優しいまちづくりの工夫を探す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まちに出て調査をする。 ・ 調査結果をまとめる。 ・ まちづくりの工夫について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今まで何気なく利用していたものの中にも、誰もが安心して生活するための工夫があることに気付かせる。 ○ 調査観点を示す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の種類や数。 ・ 利用状況など。 ○ 調査活動中の安全に配慮する。 ○ 調査からわかった点をまとめ、工夫について話し合いを促す。

第4章 みんなにとって優しいまちってどんなまち？

○「こんなマークを知っていますか？」(P53~P54)

【ねらい】

- ① 第3、4章の学習を振り返り、福祉の考えを確かめる。
- ② 「みんなにとって優しいまち」にするためには、建物や設備などを整備することも必要であるが、それ以上に一人ひとりが「思いやりのこころ」を持つことが大切であることに気付く。



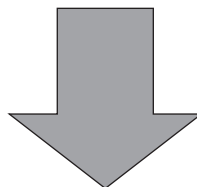
学習活動例	指導上の留意点
<ol style="list-style-type: none"> 1 これまでの福祉の学習を振り返って、考えたことを発表し合う。 2 「こんなマーク知っていますか？」(P53)を見て、さまざまなマークがあることを知る。 3 P54の吹き出しに、考えた声掛けの言葉を記入し、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実際の生活の面でも見たことのあるマークや表示を出し合う。 ○ 吹き出しを発表し合うことで、「思いやりのこころ」をもって、気づいたことや、できることから始めてみることの大切さに気付くようにする。 ○ 道徳の学習(小学校 2-(2) 思いやり・親切)と関連づける。

第5章「わたしにできることってなんだろう？」

単元の流れ

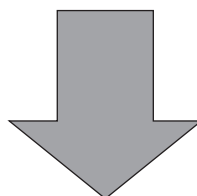
「ボランティア活動ってなんだろう？」（P55～P56）

- ① 社会の一員として出来ることの一つであるボランティア活動について正しく理解する。
- ② 身の回りのボランティア活動を認識する。
 - ・ 「ボランティア」という言葉のイメージを出し合う。
 - ・ 自分の知っているボランティア活動を記入し話し合う。



「わたしにもできるボランティア活動」（P57～P58）

- ① ボランティアに興味・関心を持つ。
- ② 自分にもできるボランティア活動について考える。
 - ・ 6つのボランティアの中で、自分にも取り組めそうな活動に○を記入する。
 - ・ 自分にもできそうなボランティアを決めて、実際に取り組んでみる。



「おばあちゃんの笑顔」（P59～P62）

- 第1章から第4章を踏まえ、社会の一員として自分にできることを考える。
 - ・ 「おばあちゃんの笑顔」を読んで感想を出し合う。
 - ・ 「ふくし」の意味を改めて考え、社会の一員として自分にもできることを記入し、出し合う。

第5章 わたしにできることってなんだろう？

○「ボランティア活動ってなんだろう？」 (P55～P56)

【ねらい】

- ① 身の回りにあるボランティアについて知る。
- ② 社会の一員として出来ることの一つであるボランティア活動について正しく理解する。



学習指導例	指導上の留意点
<p>1 「ボランティア」という言葉のイメージを発表する。</p> <p>2 56ページに自分が知っているボランティア活動を記入し、話し合う。</p>	<p>○ ボランティアの特徴である「自発性（自ら何かをしたいという意思で行う活動）」「無償性（金銭などの報酬や見返りを求めない活動）」「社会性（誰もがいきいきと暮らしていけるよう支え合う活動）」を伝え、ボランティア活動を正しく理解させる。</p> <p>○ 身の回りの様々なボランティア活動を話し合い、想起させる。</p> <p>○ 様々な人たちが様々な活動を行って、自分たちを支えてくれていることに気付くことができるようにする。</p>
<p>【参考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳の学習（高学年4－（4） 勤労・奉仕）に関連し、学習を進めることもできます。 	

第5章 わたしにできることってなんだろう？

- 「わたしにもできるボランティア活動！」
 - 「やってみよう！ボランティア活動！」
- (P57～P58)

【ねらい】

- ① ボランティア活動に興味・関心を持つ。
- ② 自分にも出来るボランティア活動について考える。



学習指導例	指導上の留意点
<p>1 6つのボランティア活動の中で、自分も取り組めそうな活動に○を記入し、話し合う。</p> <p>2 自分にもできそうな、やりたいボランティア活動について計画し、実際に取り組んでみる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同年代が行っているさまざまな活動について知り、自分が出来そうな活動を考え、話し合う。 ○ ボランティア活動に興味・関心を持たせ、実際に活動することで、ボランティアな気持ちを高めるようにする。 ○ 自分が行った活動が、様々な人を笑顔にしていることを実感できるように、活動を振り返り、これからの活動に対して興味や関心を抱くことができるよう促す。
<p>【解説】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ボランティア 個人の自由な意志によって、金銭的対価を求めず、社会的貢献を行い、連帯を生み出そうとする人。(営利を目的としないこと) ○ ボランティア 何事にも強制されず、個人の自由意思に基づいて行動すること。(ボランティアサービスともいう) 	

【主な募金団体の紹介】

○中央共同募金会（赤い羽根共同募金）

戦後直後の1947年（平成22年）に、市民が主体の取り組みとしてスタートしました。当初は戦後復興の一助として、戦争の打撃を受けた福祉施設を中心に資金支援する活動としての機能を果たしてきました。

そして60年以上たった今、社会が大きく変化する中で、さまざまな地域福祉の課題解決に取り組む、民間団体を支援する仕組みとして、また、市民のやさしさや思いやりを届ける運動として、共同募金は市民主体の運動を進めています。

※ 中央共同募金会 HPから引用

○日本赤十字社

1859年、アンリー・デュナンが提唱した「人の命を尊重し、苦しみの中にあるものは敵味方区別なく救う」ことを目的とし、世界189の国と地域に広がる赤十字社・赤新月社のネットワークを活かして活動する組織です。

※ 日本赤十字社 HPから引用

○日本ユニセフ協会

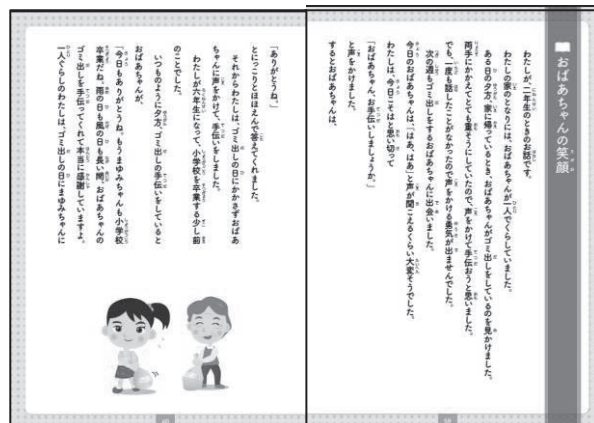
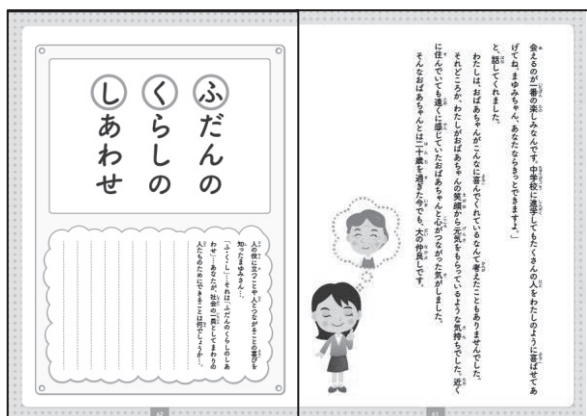
ユニセフ（UNICEF：国連児童基金）は、1946年設立の、世界中の子どもたちの命と健康を守るために活動する国連機関です。すべての子どもたちの権利が守られる世界を実現するために、世界150以上の国と地域で、保健、栄養、水・衛生、HIV／エイズ、保護、緊急支援、アドボカシー（政策提言）などの活動を実施しています。

※ 日本ユニセフ協会 HPから引用

第5章 わたしにできることってなんだろう？

○ 「おばあちゃんの写真」

○ 「ふだんのくらしのしあわせ」(P59~P62)



【ねらい】

- 第1～4章をふまえ、社会の一員として自分にできることを考える。

学習指導例	指導上の留意点
<p>1 「おばあちゃんの写真」(P59~P62)を読んで、感想を発表する。</p> <p>2 感想を基に、「ふくし」の意味を改めて考え、社会の一員として自分にもできることを記入し、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分にできること、また、継続して行うことの大切さを考える。 ○ 人の役に立つことや人とつながることの喜びを知る。 ○ 福祉は特別なものではなく、「ふだんのくらしのしあわせ」であることに気付かせ、社会の一員としてできることを考えさせる。

福岡県内市区町村社会福祉協議会 一覧

NO	市区町村社会福祉協議会	〒	住所1	住所2	TEL	FAX
1	北九州市社会福祉協議会	804-0067	北九州市戸畑区汐井町1-6	ウェルとばた8階	093-882-4401	093-882-3579
2	門司区事務所	801-8510	北九州市門司区清滝1-1-1	区役所内	093-331-3688	093-331-5994
3	小倉北区事務所	803-8510	北九州市小倉北区大手町1-1	区役所内	093-571-5452	093-571-9553
4	小倉南区事務所	802-8510	北九州市小倉南区若園5-1-2	区役所内	093-951-5388	093-951-5391
5	若松区事務所	808-8510	北九州市若松区浜町1-1-1	区役所内	093-761-3422	093-761-3660
6	八幡東区事務所	805-8510	北九州市八幡東区中央1-1-1	八幡区役所別館 2階	093-681-6601	093-681-6013
7	八幡西区事務所	806-8510	北九州市八幡西区黒崎3-15-3	コムシティ 6階	093-642-5035	093-642-5077
8	戸畑区事務所	804-8510	北九州市戸畑区千防1-1-1	区役所内	093-871-3259	093-881-8557
9	福岡市社会福祉協議会	810-0062	福岡市中央区荒戸3-3-39	市民福祉プラザ内	092-751-1121	092-751-1509
10	東区社協事務所	812-0053	福岡市東区箱崎2-54-27	東区保健福祉センター 1階	092-643-8922	092-643-8923
11	博多区社協事務所	812-0514	福岡市博多区博多駅前2-8-1	博多区役所 6階	092-436-3651	092-436-3652
12	中央区社協事務所	810-8622	福岡市中央区大名2-5-31	中央区役所 1階	092-737-6280	092-737-6285
13	南区社協事務所	815-8501	福岡市南区塩原3-25-1	南区役所別館	092-554-1039	092-557-4068
14	西区社協事務所	819-0005	福岡市西区内浜1-7-1	北山興産ビル1階	092-895-3110	092-895-3109
15	城南区社協事務所	814-0103	福岡市城南区鳥飼5-2-25	城南保健所1階	092-832-6427	092-832-6428
16	早良区社協事務所	814-0006	福岡市早良区百道1-1-1	UMIBE B.L.D1階	092-832-7383	092-832-7382
17	大牟田市社会福祉協議会	836-0815	大牟田市瓦町9-3	総合福祉センター内	0944-57-2519	0944-57-2528
18	久留米市社会福祉協議会	830-0027	久留米市長門石1-1-34	総合福祉センター	0942-34-3035	0942-34-3090
19	直方市社会福祉協議会	822-0026	直方市津田町7-35		0949-23-2551	0949-23-2552
20	飯塚市社会福祉協議会	820-0011	飯塚市柏の森956-4		0948-23-2210	0948-23-2262
21	田川市社会福祉協議会	825-0002	田川市大字伊田2735-13	スマイルプラザ田川内	0947-44-5757	0947-44-5756
22	柳川市社会福祉協議会	832-0058	柳川市上宮永町6-3	柳川総合保健福祉センター 水の郷	0944-72-5347	0944-72-5346
23	八女市社会福祉協議会	834-0031	八女市本町599	八女市社会福祉会館内	0943-23-0294	0943-23-0242
24	筑後市社会福祉協議会	833-0032	筑後市野町680-1	総合福祉センター内	0942-52-3969	0942-53-6677
25	大川市社会福祉協議会	831-0031	大川市大字上巻405-1	大川市健康福祉センター内	0944-86-6556	0944-86-6485
26	行橋市社会福祉協議会	824-0063	行橋市大字中津熊501	ウィズゆくはし内	0930-23-1111	0930-22-2903
27	豊前市社会福祉協議会	828-0051	豊前市大字吉木955	総合福祉センター内	0979-82-3391	0979-84-0245
28	中間市社会福祉協議会	809-0018	中間市通谷1-36-10	ハピネスなかま内	093-244-1230	093-244-1232
29	小郡市社会福祉協議会	838-0126	小郡市二森1167-1	総合保健福祉センターあすてらす内	0942-73-1120	0942-72-5694
30	筑紫野市社会福祉協議会	818-0013	筑紫野市岡田3-11-1	筑紫野市総合保健福祉センター カミーリア内	092-920-8008	092-920-8033
31	春日市社会福祉協議会	816-0851	春日市昇町3-101	社会福祉センター内	092-581-7225	092-581-7258
32	大野城市社会福祉協議会	816-0934	大野城市曙町2-3-2	総合福祉センター内	092-572-7700	092-593-5829
33	宗像市社会福祉協議会	811-3437	宗像市久原180	市民活動交流館メイトム宗像内	0940-37-1300	0940-37-1393
34	太宰府市社会福祉協議会	818-0102	太宰府市白川2-10	総合福祉センター内	092-923-3230	092-923-0578
35	古賀市社会福祉協議会	811-3116	古賀市庄205	サンコスモ古賀内	092-944-2941	092-944-2942
36	福津市社会福祉協議会	811-3218	福津市手光南2-1-1	健康福祉総合センター「ふくとびあ」内	0940-34-3341	0940-34-3343
37	うきは市社会福祉協議会	839-1321	うきは市吉井町347-1	総合福祉センター内	0943-76-3977	0943-76-4329
38	宮若市社会福祉協議会	823-0011	宮若市宮田4406-1	社会福祉センター内	0949-32-0335	0949-32-1009
39	嘉麻市社会福祉協議会	821-0012	嘉麻市上山田502-6	山田ふれあいハウス内	0948-43-3511	0948-43-3450
40	朝倉市社会福祉協議会	838-0068	朝倉市甘木198-1	ピーポート甘木 保健福祉センター内	0946-22-7834	0946-21-0166
41	みやま市社会福祉協議会	839-0214	みやま市高田町今福314-1	みやま市高田総合保健福祉センター「あたご苑」内	0944-22-5000	0944-22-5099
42	糸島市社会福祉協議会	819-1105	糸島市潤1-22-1	健康福祉センター あごら内	092-324-1660	092-324-3166
43	那珂川市社会福祉協議会	811-1242	那珂川市西隈1-1-2	福祉センター内	092-952-4565	092-952-7321

NO	市区町村社会福祉協議会	〒	住所1	住所2	TEL	FAX
44	宇美町社会福祉協議会	811-2101	糟屋郡宇美町宇美2-1-11	宇美町立老人福祉センターくすの杜内	092-931-1008	092-931-1009
45	篠栗町社会福祉協議会	811-2417	糟屋郡篠栗町中央1-9-2		092-947-7581	092-947-6021
46	志免町社会福祉協議会	811-2202	糟屋郡志免町大字志免451-1	総合福祉施設シーメイト内	092-937-3011	092-936-9067
47	須恵町社会福祉協議会	811-2114	糟屋郡須恵町大字上須恵1167-3	社会福祉センター内	092-933-2160	092-933-2168
48	新宮町社会福祉協議会	811-0119	糟屋郡新宮町緑ヶ浜4-3-1	社会福祉センター内	092-963-0921	092-963-0127
49	久山町社会福祉協議会	811-2501	糟屋郡久山町大字久原3553-1	久山会館	092-976-3420	092-976-3430
50	粕屋町社会福祉協議会	811-2317	糟屋郡粕屋町大字長者原東6-5-10		092-938-6844	092-938-6886
51	芦屋町社会福祉協議会	807-0131	遠賀郡芦屋町緑ヶ丘4-22	社会福祉会館内	093-222-2866	093-222-3713
52	水巻町社会福祉協議会	807-0025	遠賀郡水巻町頃末南3-11-1	いきいきほーる内	093-202-3700	093-202-3708
53	岡垣町社会福祉協議会	811-4234	遠賀郡岡垣町大字高倉598-1	おかがき総合福祉保健センター いこいの里内	093-283-2940	093-283-2825
54	遠賀町社会福祉協議会	811-4312	遠賀郡遠賀町浅木2-31-1	ふれあいの里センター内	093-293-0430	093-482-8880
55	小竹町社会福祉協議会	820-1103	鞍手郡小竹町大字勝野3362	町総合福祉センター内	09496-2-2028	09496-2-0964
56	鞍手町社会福祉協議会	807-1305	鞍手郡鞍手町大字新延414-1	総合福祉センター内	0949-42-7800	0949-42-7808
57	桂川町社会福祉協議会	820-0606	嘉穂郡桂川町大字土居463-1	いきいきセンター桂寿苑内	0948-65-2271	0948-65-4555
58	筑前町社会福祉協議会	838-0215	朝倉郡筑前町篠隈373	コスモスプラザ福祉館内	0946-42-4555	0946-42-5941
59	東峰村社会福祉協議会	838-1602	朝倉郡東峰村大字小石原鼓2846	喜楽来館内	0946-74-2012	0946-74-2666
60	大刀洗町社会福祉協議会	830-1201	三井郡大刀洗町大字富多819	ぬくもりの館大刀洗内	0942-77-4877	0942-77-6220
61	大木町社会福祉協議会	830-0416	三潞郡大木町大字八町牟田538-1	町健康福祉センター	0944-32-2423	0944-33-2015
62	広川町社会福祉協議会	834-0115	八女郡広川町大字新代2165-1	保健福祉センター内	0943-32-3768	0943-32-5530
63	香春町社会福祉協議会	822-1403	田川郡香春町大字高野727	地域福祉センター「香泉荘」内	0947-32-4616	0947-32-5414
64	添田町社会福祉協議会	824-0602	田川郡添田町大字添田1573	ふれあいの館そえだジョイ	0947-82-2600	0947-82-2688
65	糸田町社会福祉協議会	822-1316	田川郡糸田町1971-1	社会福祉センター内	0947-26-4540	0947-26-3666
66	川崎町社会福祉協議会	827-0004	田川郡川崎町大字田原804	総合福祉センター内	0947-72-5244	0947-72-5242
67	大任町社会福祉協議会	824-0512	田川郡大任町大字大行事3090	老人福祉センター内	0947-63-4828	0947-63-4858
68	赤村社会福祉協議会	824-0432	田川郡赤村大字内田1188	赤村役場内	0947-62-3004	0947-62-3007
69	福智町社会福祉協議会	822-1201	田川郡福智町金田1154-2	社会福祉センター内	0947-22-6631	0947-22-6678
70	苅田町社会福祉協議会	800-0314	京都郡苅田町幸町6-91	パンジープラザ内	093-434-3641	093-434-4343
71	みやこ町社会福祉協議会	824-0217	京都郡みやこ町犀川古川50		0930-42-1000	0930-42-1719
72	吉富町社会福祉協議会	871-0811	築上郡吉富町大字広津641-1	吉富町住民福祉センターひだまり内	0979-23-5400	0979-23-5454
73	上毛町社会福祉協議会	871-0903	築上郡上毛町大字八ツ並143-1	げんきの杜	0979-72-2900	0979-72-3963
74	築上町社会福祉協議会	829-0301	築上郡築上町大字椎田861-1	社会福祉センター 自愛の家内	0930-56-2223	0930-56-2244

福祉教育教材「ともに生きる」活用のための資料

2015年（平成27年）2月 第一版第1刷

2022年（令和4年）4月 第一版第5刷

社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会

〒816-0804 福岡県春日市原町 3-1-7
電話 092-584-3377 ファックス 092-584-3369

この資料は、赤い羽根共同募金の配分金を活用して作成しました

